

自動車、販売・生産ともに減少

銅スクラップは輸出減、輸入増



橋本健一郎氏

七月前半は、英国のEU離脱を受けてイングランド銀行のカーニー総裁が中央銀行は経済的な苦痛を完全に払しょくできないと発言した

こと、イタリアの銀行の不良債権が新たなリスクとして浮上などのマイナス材料もあったが、早期に英国の次期首相が内定した事やFRBが追加利上げに慎重な姿勢を取り続けている事、六月の米雇用統計で失業率は四・九%に上昇、予想は四・八%。しかし非農業部門の雇用者数は二八・七万人増で予想の一八万人増を上回った事を好感しLME銅相場はUP、七月十五日時点で四、九一ドル(セツル)と月初価格より八四ドルUPの前半締めとなった。

後半は、亜鉛、ニッケルの主要鉱山閉鎖や生産減を受けての金属全般の上昇やFOMCでの金利据え置きなどのプラス材料もあったが、IMF(国際通貨基金)が今年の世界経済成長率を下方修正。英のEU離脱決定の影響看過できず。今年の世界GDP成長率見通しは三・一%で四月の三・二%から引き下げ。二〇一五年と同じ水準だったことや今年前半の中国の銅生産が前年同期比七・六%増と発表されたことで供給過剰感が台頭し下落、八月四日現在、後半スタート価格から三八ドルDOWNの四、九〇七ドル。銅建値五五万円となった。

◆月間のドル/円レート (TTS)
一〇四・一四→一〇二・九九(円)。

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比一%減の八〇万四、二〇一台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比〇・二%減の二八万一、七五三台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比二・五%減の八万五、九五三戸であった。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が六・一%増の四万九、三四〇t、スクラップが三八・六%減の二万〇、三二七t。

輸入

輸入は電気銅が前年比一二・二%増の四、二一五t、スクラップが三一・八%増の一萬一、七三三t。

■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年四・九%増の六万八、八四〇t。
日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比五・五%減の五万五、九〇〇tであった。

■概況

【自動車生産】

六月の四輪車生産台数は八〇万四、二〇一台で、前年同月の八一万一、九九二台に比べて七、七九一台(一・〇%)の減少となり、二カ月ぶりに前年同月を下回った。六月の車種別生産台数は、乗用車が六七万九、六四三台で三、八二九台(〇・六%)の減少となり、二カ月ぶりのマイナス。トラックが一萬二、七三〇台で二、八八三台(二・五%)の減少となり、一四カ月連続のマイナス。バスが一萬一、八二八台で一、〇七九台(八・四%)の減少となり、七カ月連続のマイナス。

六月の国内需要は四二万〇、九〇七台で、前年同月比四・九%の減少であった。うち乗用車三四万四、三二四台で前年同月比五・六%の減少、トラック七万五、四八四台で同一・六%の減少、バス一、〇九九台で同一五・〇%の増加。輸出は前年同月比一・二%の増加(実績)。

【自動車販売】

七月の国内自動車販売台数(軽除く)は二八万一、七五三台で前年比〇・二%減と、四カ月ぶり減少。うち乗用車〇・六%減、貨物二・一%増、バス二・〇・四%増。

【住宅着工数】

平成二十八年六月の住宅着工戸数は八万五、九五三戸で、前年同月比で二・五%減となった。また、季節調整済年率換算値では一〇〇・四万戸(前月比一・三%減)となった。

・住宅着工の動向については、前年同月比で六カ月ぶりの減少となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家は増、分譲住宅は減となった。

・引き続き、今後の動向をしつかりと注視していく必要がある。
(六面へ続く)

今月の相場は原油や中国の政策が左右 為替は一ドル1100円台の円高も

(四面より続く)

【伸銅品生産】

六月の伸銅品生産は前年比四・九%増の六万八、八四〇tと、二カ月連続増加。このうち、内需五万七、五七tで六・三%増と、二カ月連続プラス。輸出一万一、二六九tで一・九%減と、一五カ月連続マイナス。品種別では、銅条二万一、七四〇tで七・五%増と、二カ月連続プラス。黄銅棒一万五、九三八tで六・二%増と、二カ月連続プラス。

【電線】

六月の電線出荷(推定)は、前年比五・五%減の五万五、九〇〇t。うち、国内四・二%減、輸出が四三%減。出荷部門別では、通信一四%減、電力二・七%減、電気機械六%減、自動車二・三%増、建設・電販五・四%減、その他内需〇・一%減。

【輸出】電気銅輸出が六・一%増の四万九、三四〇t。銅スクラップは三八・六%減の二万〇、三二七t。

【輸入】電気銅が一二・二%増の四、二一五t、スクラップは三・八%増の二万一、七三三t。

【見通し】

・自動車は生産が一%減。六月の国内販売台数が前年比〇・二%減。生産が二カ月ぶりマイナス、販売が四カ月ぶりマイナス。今後の動向に注目。

・住宅着工の動向については、前年同月比で六カ月ぶりの減少となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家は増、分譲住宅は減となった。引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

・伸銅品は二カ月連続プラスの前年比四・九%増。内需は前月に続きプラスも、輸出は減少が続き一五カ月連続マイナス。需要の多い銅条が二カ月連続プラス。黄銅棒も二カ月連続プラス。需要の多い銅条がプラス、黄銅棒が再びプラスで、ついに一万五千t台回復。今後の回復が望まれる。

・電線は輸出が一カ月連続二桁減少の四三%減。内需は四・二%減。自動車向けが二カ月連続プラスの二・三%増。

・銅輸出は内需減による国内玉の供給過

剩から地金は増加、スクラップは発生難から大幅減少。

・銅輸入は、原料不足により地金・スクラップ共に増加した。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は、銅建値が五四万円から五七万円で回復した時点で、塩漬け玉の大半は出たのではないかと。ただ再び下落傾向にあり、今後安定的な発生は期待できない。

先月は自動車生産、販売が久々に揃って増加したものの、今月再び微減。今月も生産増加に伴う需要増は期待薄。

【価格・為替予想】

今月は、再び四〇ドルを割った。原油と三、〇〇〇を割った中国上海株を受けての中国の金融政策に左右される。

原油の価格に関しては、中国景気の後退・需要減の影響は当然あるものの、サウジアラビアがアジア向けの原油の価格を引き下げたことからOPECでの価格調整が再び困難になる可能性が高く、四〇ドルを長期的に下回る可能性が高いのではないかと。

中国国家统计局発表のPMIが再び五〇を割り込んだことをうけて、追加緩和がされる可能性があるが効果は限定的ではないか？

それらを踏まえた八月の銅価格は、原油価格が四五ドル程度まで回復し、中国の追加緩和が行われ上海株が三、二〇〇まで回復した場合、心理的節目の五〇〇〇ドルを予測。いずれの場合も四、八五〇ドルを下値はいずれの条件も達成できなかった場合、七月安値の四、七〇〇ドル。

為替は米利上げ観測の後退や日銀の金融緩和策が不発に終わった現状や追加的な金融緩和策が難しいことから円高が続くのではないかと。

それらを踏まえ予測は、上値は日本が何らかの為替対策結果的に一切行わず、米利上げ観測が後退した場合、一〇〇円台(TTM)を予測。下値は、日本がさらなるマイナスイ金利策や為替介入などを行い、米利上げ観測が台頭した場合、七月後半安値の一〇七円を予測。

銅建値に関しては五〇〇〇五七〇円程度と予測している。